

令和5年3月1日

静岡大成高等学校第19回卒業証書授与式 学校長式辞

日ごとに、春の訪れを感じさせる季節となりました。本日、静岡大成高等学校、第19回卒業証書授与式を挙げていくことを、大変嬉しく思います。ご来賓の皆様方には、ご多用の中ご臨席を賜り、衷心より厚く御礼申し上げます。

保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。陰になり日向になり、お子様の成長を見守って来られ、嬉しかったことや辛かったことなど、さまざまな思いがよみがえってきていることとお察しいたします。また、この3年間、本校の教育方針にご理解とご協力を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。

177名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。心よりお祝いをいたします。進学をして学問を究める人、専門知識を身につける人、就職して社会人として活躍する人、進む道は違いますが、必ず目標を持ってスタートラインに立ってください。

みなさんの高校生活がスタートした令和2年は、入学前の3月から、新型コロナウイルス感染が、拡大し始めていました。中学の卒業式が実施できなかった学校もありました。本校の入学式は、何とか実施できましたが、翌週から5月下旬まで、1か月余に渡り臨時休校となりました。みなさんは、友達を作り、学校に慣れる大切な時期に、自宅待機を余儀なくされ、先の見えない不安な毎日を送ったことと思います。学校では教職員が一丸となって、オンラインシステムを研究・構築し、ご家庭のご協力を得る中で、課題や授業の配信にこぎつけました。全国でオンライン授業を実施した小中高校が、5%に留まったことを考えると、本校は、学校と家庭とで、良い連携が取れたと思っています。

行事や大会も相次いでなくなり、先輩や同級生と共に努力し、助け合う場面も削られていきました。修学旅行でハワイに行けなかったことは、本当に残念だったと思いますが、皆さんは、不満を口にすることもなく、九州の旅行を楽しんでくれました。人間は、逆境に立たされた時こそ、それを乗り越える力を身につけ、一回り大きく成長できるのだと思います。コロナ禍を乗り越えた経験が、これからの皆さんの人生において、必ずやプラスの財産として残ると、私は確信しています。

卒業する皆さんに私から伝えたいことが2つあります。

一つはこの3年間、私が皆さんに言い続けてきた2つのテーマです。

「自分の力で考え、判断し、正しい言葉で伝えることができる」

「他者の意見を聞き、他者の立場に立って物事を考えることができる」

これをこれからも実践し、人とのより良い関係を、築いていってください。

もう一つは、「哲学を持て」ということです。難しい学問をしろということではありません。哲学とは、自分なりの考え方や信念を持つことです。迷った時、困った時、辛い時、それらを乗り越える拠り所となるものが哲学です。

私の哲学は、「前を向くこと」と「あきらめないこと」です。これは20年間、私がランニングを続けていく中で、考えるようになりました。前を向いて、あきらめずに走り続ければ、ゴールにたどり着く。当たり前のことですが、私にはとても重要なことで、自分が生きていく指針となっています。

みなさんにも、自分が大切にしている考え方や、守っていること、こだわっていることなどがあると思います。それを、自分が生きる拠り所として、大事に育てていけば、それはあなたの哲学となってあなたを支えてくれることでしょう。

最後になりますが、皆さんの本校入学の年に、私も校長に就任しました。コロナ禍の3年間で皆さんと過ごしたことに、私自身、大変感慨深いものがあります。皆さんと、学校のマラソン大会を走ってみたかった。それができなかったのが残念です。皆さんのこれからの飛躍と活躍を期待しています。がんばってください。

令和5年3月1日

静岡大成高等学校 校長 山田 隆司